

観光型高速クルーザー SEA SPICA(シースピカ)乗船記

個人会員 岡島 純

9月に瀬戸内の島巡り観光に特化したクルーザーが運航されている。10月2日から個人乗船が可能となった。2019年5月「せとうちエリア海事観光振興に向けた連携協定」により、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構が2018年度に創設した「国内クルーズ船」の共有建造制度を活用し、瀬戸内クラフト(株)で建造された。全長25.7m、幅6.8m、深さ2.4m、90トン、定員90名、航海速度22knt。広島港と三原港間の島々を12月14日まで月、金、土、日に運航している。運航会社は瀬戸内シーライン(株)(瀬戸内海汽船グループ)

今回乗船したのは、西向きの三原港発、瀬戸田港、大久野島、御手洗、呉港、広島港着コース。東向きは朝に広島港発、呉港、下蒲刈島、大久野島、瀬戸田港、三原港着のコースがある。両コースとも瀬戸田港以外の島でしばらく停泊し島内観光が出来るようダイヤが組まれている。

本船は濃紺と白の船体塗装がされ、金色のラインが入っている。

1階は波のようなデザインされた座席があり、定員70名。正面に4面マルチ画面があり、航行中は乗船しているコンシェルジュによる島々の魅力や歴史の解説があり都度画像に映し出されたり、ブリッジカメラからの映像を流して、退屈させないように工夫されている。

トイレは女性専用とバリアフリー対応の男女兼用の2箇所あるが、男性専用がなく並ぶ列ができていた。

大変小さなスペースであるが、スピカカウンターで乗船記念品や瀬戸内の特産品を販売されている。

2階はオープンデッキで中央部にソファがあり、左右3脚、船尾に4脚椅子が設置されており、ブリッジ後方に画面があり、航路や現在地を映し出してくれるが、ブリッジ内を見ることができない難点。

1階から2階への階段が狭くすれ違いくいのも難点であるが、昇降機が設置されバリアフリー構造になっている。

乗船前日の10月1日に2020年度グッドデザイン100ベストを受賞しており、2020年度のシップオブザイヤー受賞できる可能性を秘めている。前年2019年度に瀬戸内海汽船のSea Paseoが受賞している。

COVID-19対策で船内は日本で初めて抗ウイルス抗菌処置がなされており、アルコール消毒液が両舷入口と売店のスピカカウンターに設置。船内換気は5～10分で外気と入替されている。

昼間の瀬戸内を巡る船が少ない中で、年間を通じて穏やかな海をこのようなクルーザーが就航したことにより「せとうち」の魅力が増してくると思う。



乗船券(表)



乗船券(裏)



三原港入港



正面から



1階座席(テーブルとカップホルダー設置)



船内図と抗ウイルス抗菌処理済証



2階ソファ



ブリッジ後方



瀬戸田港に停泊中の「シーホーク」



大崎下島の御手洗に停泊



SEA PASEO



OCEAN DREAM(呉港沖係留)



銀河(広島港)